

上海経済の現状と展望

—経済広報センターがオンライン講演会を開催—

2022年7月12日

講師：黄峰 上海市外商投資協会 会長



経済広報センターは7月12日、「上海経済の現状と展望～コロナによる影響も踏まえて」と題するオンライン講演会を上海市人民対外友好協会の協力を得て開催した。会員企業海外事業担当者など約70名が参加した。講師を務めた上海市外商投資協会会長の黄峰氏は、新型コロナウイルスの感染拡大による上海経済への影響や今後の見通し、上海における外国企業への期待などについて説明した。

黄氏は、直近の上海経済の状況について、新型コロナによるロックダウンがあった2022年4月は海外からの投資が大幅に低下したものの、5月にはある程度改善がみられ、今後も新型コロナの感染が落ち着けば回復する見込みであると指摘した。また、現在、外国企業による上海への投資のうち95%超は第3次産業向けであり、特にハイテク産業への投資が年々増加していると説明した。雇用や税収面での外国企業の貢献も非常に大きいとし、外国企業の参入は上海経済の発展に不可欠だと述べた。

また黄氏は上海への投資をめぐる政策についても解説。外国企業に対する制限の緩和や知的財産権の保護の強化、不当行為に対する相談窓口の設置など、上海政府はビジネス環境の改善に積極的に取り組んでいると述べた。

さらに、今後の上海市場における重要なキーワードは「デジタル化」「低炭素化」「現地化」であると、これらに配慮したうえでの日系企業のさらなる活躍に期待を寄せた。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。